

□海外文献紹介□

**切除術は膵癌の治療として適当か
—殊に費用面からの検討**

Is resection appropriate for adenocarcinoma of the pancreas? A cost-benefit analysis : Lee MS, Stahlgren LH (Am J Surg 154: 651-654, 1987)

従来より、膵癌の治療としては、切除術も消化管吻合あるいは減黄術などの姑息的手術も、その予後に関しては差はないとする報告が多かった。本論文では更に入院期間、治療費の面も加えて切除術と吻合術との差を検討した。

対象は膵癌患者 116 例で、切除

10 例(8.6%)、吻合 68 例、開腹のみ 9 例、非手術 29 例よりなった。それぞれの入院期間、生存期間、手術死、合併症、治療費などを検討した。

手術死は吻合術で 13%、切除術で 30%、平均生存期間は吻合術で 7.5 か月、切除術で 10.4 か月、5 年生存は前者にのみ 1 人みられた。合併症は吻合術で 35%、切除術で 70%、費用は吻合術で \$17,922、切除術で \$61,161 と全般的にみても費用を考慮しても吻合術のほうが有利であった。したがって膵癌の治療としては、切除術より吻合術のほうが妥当である。

〔訳者コメント〕 本論文は費用に

対する患者への利益というより、その効果のみ取り扱っている。膵癌の治療は専門医のみに限るべきで、また放射線療法なども追加すべきである、などが他施設の医師より述べられている。

われわれも度々報告したように(消化器外科 11: 1491, 1988) Stage III ないし IV の膵癌ですら切除したほうが予後がよく(本論文は Stage についても言及されていない)、更に術中照射などを加えれば、予後のみならず quality of life も改善され则认为している。

(愛知県がんセンター消化器内科

久野信義 抄)